



◆当面する重点作業

1. 高温干ばつが続いている。土壌水分は日焼け助長に影響するため、定期的なかん水を実施する。
2. 降雨続く、降雨時間が長い場合は、炭疽病・輪紋病・斑点落葉病などの発生が心配されたため、薬剤散布は、散布間隔を空けず降雨前に実施する。
3. 徒長枝切り、支柱立てを行い、薬剤の到達条件を良くしてから死角が出ないようにタツプリ、丁寧に散布を行い、防除を徹底する。
4. 鳥害・ヤガ対策を行う。
5. スモモヒメシンクイの被害果は放置せず処理する。

◆第10回の薬剤散布について

1. 散布時期：7月23日(水)～27日(日) 散布日 月 日
2. 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
フリントフロアブル25	50ml	斑点落葉病・褐斑病・すす斑病	前日
ベルコートフロアブル	66ml	・すす点病・輪紋病・炭そ病	前日
マイトコーネフロアブル	100ml	ハダニ類	前日
㊤バリアード顆粒水和剤	25g	キンモンホソガ・シンクイムシ類	前日

3. 散 布 量：10a当り ⇒600ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①早生種が無い場合は、マイトコーネフロアブルに代えて、カネマイトフロアブル(水100ℓ当り100ml・収穫7日前まで)を使用する。
 - ②ナシヒメコン設置園(モモシンクイガ対策)又は、シンクイムシの発生が心配される場合は、㊤バリアード顆粒水和剤を2,000倍(水100ℓ当り50g)で使用する。
 - ③カイガラムシ類発生園は、コルト顆粒水和剤3,000倍(水100ℓ当り33g)を加用散布する。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000ℓ当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットⅡは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆かん水・排水対策について

1. 降雨が無い場合は、20mm程度の定期的なかん水を行う。
2. 降雨が多い場合は排水対策を行い、根腐れを防ぐ。
特に、新しい化栽培は滞水に弱いので園や葉が黄色くなって落葉している園では注意する。
3. 梅雨が明け後は、水分競合を防ぐため短く刈り込む。ただし土が見えるほど刈り込まない。

◆園地の除草対策について

- 1. 早生種の収穫時期が近づいているので、除草剤の使用基準・収穫前規制に注意する。
- 2. 梅雨の期間中は草に余分な水分を吸わせていたが、梅雨が明けたら草丈を短くして乾燥防止を行う。
ただし土が見えるほど刈り過ぎると、水分の蒸散が多くなるので注意する。
- 3. 降雨により園内が滑りやすくなっているので注意して作業する。

◆心かび果(心腐れ果)対策について

シナノリップの心かび病では、地色の抜けと着色が早い。収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となる。シナノリップは、7月中下旬頃を目安に確認実施する。大玉の果実を中心に着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化が早い果実は、樹上で除去する。

◆サンつがる落果防止・軟質果防止剤の散布について

- 1. 散布時期：満開90日後頃（7月23日前後）。収穫7日前までに散布する
 - ①果実肥大が良く樹勢良好な樹 ⇒ 7月20日～7月26日の1回のみ散布日 月 日
 - ②玉伸びが悪く弱樹勢な樹 ⇒ 7月27日～8月2日の1回のみ 散布日 月 日
- 2. 調 合 量：水1000ℓ当り

展着剤は加用しない。

農薬名	使用量	収穫前
ストップール液剤	100～83ml	25～7日前まで

- 3. 散 布 量：10a当り500ℓ以上
- 4. 散布上の留意点
 - ①品質向上のためいずれかの葉面散布肥料を使用する。

葉面散布肥料	使用倍率・使用量
ケルパック66海藻液肥	500倍（水1000ℓ当り200ml）
オルガミン	1,000倍（水1000ℓ当り100ml）
友果	500倍（水1000ℓ当り200ml）

- ②樹勢が弱い場合や過熟果になりやすい場合は、ストップール液剤を1,500倍（水1000ℓ当り66ml）にして散布する。